

続「松江の地名由来は何でしょうか？」 佐和田 丸（近畿双松会）

松江観光大使をお抑えつがっている私は、時折、松江の地名由来を聞かれることがある。わかりません、知りません、とも言えず、私なりにしらべてみた。巷間よく知られているのは、下記の諸説である。

(一)『懐橋談』『雲陽誌』という江戸期の地誌によるもので、松江城を築いた堀尾吉晴が、松江の風景が湖面に美しく映え、鱸(すずき)や蓴菜(じゅんさい)を産するところが中国浙江省の淞江府(ずんこうふ)似ているとして命名したという説。

(二)新井白石の著『紳書』によると、堀尾氏の家臣で松江城の縄張工事にあたった小瀬甫庵(おぜほあん)が「鱸の名所也」として命名したという説。

(三)『雲陽大数録』では圓成寺(堀尾氏三代の廟所)開山春龍和尚の命名とし、「唐土ノ松江、鱸魚ト蓴菜ト有ルカ故名産トス、今城府モ其スノコウニ似タレバ、松江ト称ス云々」と記されているという説。そして、昭和53年(1978)には、島根大学の入谷仙介教授も地元新聞に、命名に苦心していた堀尾吉晴が、渡明の経験のある春龍和尚の進言もあって「松江」を採用したのではないかという推論を発表されたりしていた。

以上の諸説はいずれも、開府後の中国伝來說とあってよい。そして、これらは観光誌などで、盛んに利用喧伝されてきた。

他方、郷土史家の先達である藤岡大拙氏が、これらの説を否定し、『松江』の地名は開府以前からあったという論考を「松江開府400年 松江藩の時代」(平成20年山陰中央新報社)の冒頭に掲載されている。既にその前の平成13年3月には「湖都松江」創刊号の特別稿に「椿説 松江地名考」として掲載されておられる。

それによれば、「天文3年(1534)、越前福井の人、大森正秀が出雲大社参拝の旅を「出雲紀行」として著わしている中で、“出雲の松江の府に至ったら、その錦浦は磯馴松(そなれまつ)生い連なる美しい風景であった”と記している」とのこと。

藤岡氏は、「松江の府」はおそらく意宇川の河口あたり、「錦浦」は出雲郷の南岸あたりではないかと推論され、その70年後の松江開府時に、堀尾吉晴はその狭い地帯の地名の「松江」を、末次、白潟二郷を含む広い地帯の地名に拡大して採用し、それが中世から近世の松江への転換点となったと論考しておられる。同氏は、少なくとも、松江開府の70年前には(もっと前からかもしれない)、「松江」という地名が狭い地域であったにせよ存在していたという史実に即したこの論考を発表されている。

1998年(平成10年)7月、和歌山毒物カレー事件が発生した。読者もご記憶の方もおありと思うが、地区で行われた夏祭りにおいて提供されたカレーライスに毒物が混入され、67人が急性ヒ素中毒になり、うち4人が死亡した事件。その犯行現場からほど近いところに、「松江」地区がある。

「松江地区」があると知り、角川地名辞典で調べてみたら、昔は松林に囲まれた美しい入江で、名前もそれに由来し、今は埋め立てられ広大な日本製鉄和歌山製鉄所となっている、とあった。

私はその時、和歌山でそうなら、古代からの人間の営みの盛んなわが「松江地帯」にも、昔から「松林に囲まれた入江」があって、開府以前から「松江」と呼ばれていたとも考えられる。昔の人は、単純にまわりの自然に合わせて命名してきた。田の中に家があったから「田中」。木の下に家があったから「木下」など。松江の場合も、和歌山松江と同様に、中国伝来や、他地域の旅人が命名したのではなく、周りの自然にあわせて、当時の住民が名付けたのではなかろうか。

佐和田 丸

メール malu122@nifty.com

HP 近畿双松会会報2013web版 83p

補遺 近畿双松会会報2014web版 48p49p

島根県 PR 大使・遣島使（けんとうし、遣唐使をもじったもの） ふるさとしまね応援団

松江観光大使 飯南町応援団 浜田応援団 北海道伊達市中心の市民

佐和田登記測量事務所（松江市）顧問

佐和田丸事務所

佐和田丸総合研究所代表

KK ユニバーサル・コンサルティング顧問

島根県知事表彰（県政功労者、平成22. 11. 3）

頓原町長表彰（現・飯南町 町政功労者、平成16. 12. 19）

元近畿島根県人会役員現会員 元近畿広島県人会会員

元関西頓原会会長 元近畿飯南会顧問

三大琴会会長 縁結びボランティア 雅号大峰

飯南町、松江市、島根県、山陰へお嫁にきませんか。移住しませんか。

大しめ縄の聖地 パワースポット 日本&世界一飯南町大しめ縄創作館

神々のふるさと山陰 <http://furusato.sanin.jp/>

沖縄宮古島 佐和田の浜、佐渡ヶ島 佐和田温泉 勝手応援団（佐和田姓のルーツ）

「出雲大社神楽殿大しめ縄 6年ぶりの掛け替え」近畿双松会会報 2018, web版74pをご覧ください。

森林セラピーの聖地 島根県の森大万木山（おおよろぎさん、寝仏山、シャカ岳）に大階段1時間最短コース誕生。HP 参照。国道54号道の駅とんぼら、または松江道道の駅たかのから、草峠をへて、約30分で大階段下P。ここからわずか200m、約1時間登れば頂上です。304階段にちなみ、悩みされよコースの愛称もあり、悩み持つ方の人気コースとなっている。

県民の森大万木山、草の城山+霊峰琴引山の好眺望地のご案内 R54 頓原エルシー店起点 ①頓原橋を広島方面由来八幡宮間を往復する。②みせん横の頓中坂經由頓原球場間を往復する。いずれも約20分。

松江の地名由来考 近畿双松会、東京双松会 HP の拙稿をご覧ください。

いいけん、島根県、美肌県、そしてご縁の国。

最後までお読みくださって「だんだん」。「だんだん」は出雲弁でありがとうの意味です。

